

# 兵庫県ワシントン州事務所インターンシップ報告書

経営学部 2 学年

氏名 藤原あみ

実施期間：平成 27 年 2 月 9 日（月）～27 日（金）

## ○インターンシップの内容

私は、ワシントン州シアトルにある兵庫県事務所でインターンとしてお世話になりました。事務所内での主な業務は、書類作成などです。主に、兵庫県ワシントン州事務所主催の日本語スピーチ・アンド・スキット・コンテストに対する補助金の申請書類の作成を行いました。イベントを開催するためには兵庫県からの予算だけでなく、財団からの補助が必要不可欠だそうです。コンテストの内容、必要な予算、今年度の魅力など、昨年との変更点に注意しながらほぼ全ての項目に関わらせていただきました。



兵庫県事務所では、兵庫県や日本の企業のアメリカでの事業を支援しています。例えば、和牛のプロモーションのために日本食レストランに協力してもらい、シアトルに店舗を構えるアメリカ人シェフたちに和牛を用いた料理を振る舞うというイベントがありました。和牛をアメリカで販売するきっかけとして、シェフに和牛に興味を持ってもらうのが目的です。実際に、打ち合わせの場に同行させていただく機会もありました。

その他に、様々なイベントに参加させていただきました。

### ・ビジネスセミナー

アメリカで起業を考えている日本人へのビジネスセミナーで、起業に必要な基本的な知識を、日本の法律と比較しながら学びました。アメリカで活躍されている日本人の弁護士の方が講師で、会社法を分かりやすく学ぶことができました。

### ・ワシントン州観光サミット（WTA）

ワシントン州の州都、オリンピア市で開催されました。ワシントン州はオリンピック国立公園やマウントレーニア山を擁し、自然を生かした観光業が盛んですが、州の西側の 3 分の 1 に観光地が集中しており、東側の観光業が弱いそうです。さらにアメリカの中で唯一、観光のマーケティング事業が行われていない州であるという問題点もあります。WT

Aはこの状況を打開するために発足され、スターバックスやボーイング社などのワシントン州の有名企業がスポンサーとして参加しており、注目度の高さがうかがえました。

#### ○インターンシップで得たこと

自分の意見を持つこと、です。インターンシップ中に、なぜそういう風に考えたのか、という質問をされるが多かったからです。これはホームステイ中にも感じたことなのですが、「なんとなく」という答えでは納得してもらえません。シアトルでインターンシップをしてからは、自分の行動や考えに至った理由を深く考えるようになりました。

#### ○これからの自分にどう活かされていくか

受け身ではなく自分から行動しようと心がけるようになりました。今までは将来どんなことがしたいのか、どんな職業に就きたいのかを頭の中で考えているだけでしたが、インターンシップを通して、実際に経験する大切さを知ることができました。悩むことも大事ですが、いろんな経験を通して本当に興味のある分野を見つけたいと考えています。



#### ○後輩たちに引き継いでいきたいこと、メッセージ

インターンシップ期間はあっという間に過ぎていきます。インターンシップに関わることもそうでなくても、やりたいことや知りたいたいことが見つかったらすぐに行動に移すことが大切です。アメリカに行って感じたことは、アメリカ人は好奇心に対して非常に協力的だということです。自分の専門分野でなくとも、知り合いにすぐに相談してくれるようなフットワークの軽さを感じました。事務所の方々も親身に相談に乗ってくださるので、遠慮せずにいろんな人に頼ることで、充実したインターンシップにできると思います。

新しいことに挑戦するときには、不安はつきものです。私が何か迷った時の判断基準は、やらなかったときに後悔しないかどうかです。兵庫県ワシントン州事務所へのインターンシップも、1回生の後期のグローバルリーダー教育ユニットへの参加がきっかけです。単位の出ない週2回の授業ということで迷いもありましたが、授業内容に魅力を感じ、参加することにしました。積極的で好奇心旺盛なみんなから刺激を受け、私自身も向上心を持って楽しむことができました。結果的にインターンシップの機会をいただき、改めて参加してよかったと思います。何かやってみたいことがある人は、ぜひ一度経験してみたいです。